

# 園長通信

## (令和8年度6月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園  
園長 岡部 祐輝

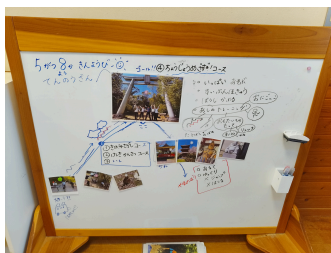
### 【それぞれのやってみたいは違うということ】

日に日に、気温が上昇し今年度も暑いな…と感じる日が増えてきました。熱中症対策やリスクを職員間でも共有しながら、子どもたちの活動ができる限り様々なできるよう支援したいと思います。

さて、5月には年長・年中の子どもたちの遠足がありました。今回は年長の子どもたちの遠足を例に考えたいと思います。

年長で、これまで京都府大山崎町にある天王山に春の遠足で行っています。自然環境が多く子どもたちにとって多くの気付きや実感を得られる場であると同時に、自然、山に存在する危険性や状況の変化などがあることを園としても踏まえ、状況を調べ、捉えて遠足の在り方を例年見直しています。(例：熱中症リスク・天候の急変・野生動物の情報・子どもたちの体力や状況 等)

子どもたちはまず、保育者が下見で撮影した写真や動画を見ながらイメージを膨らませています。そのうえで、「自然・山の中で何がしたいか」ということをクラスで考えることにしました。



その後、体育遊びではホールに跳び箱やマットなどを登山道に見立て、登る練習をしてみたり、幼稚園のスロープで「トレーニング」と称して、リュックを背負い往復するなど、子ども達のアイデアに基づき、遠足当日まで楽しみを膨らませました。



そして遠足当日、天候の関係で延期日での実施となりましたが、晴天にも恵まれ、山道を歩いていきます。





子どもたちのアイデアで生まれた各グループの活動を終え、広場でお昼ご飯を食べ、また全体で下山し帰路につきました。

遠足などの行事は、特に「**みんなで一つのことを**」という意識が強く出やすい性質の活動であると考えます。日々の活動や遊びもそうですが、子どもたち一人一人の興味関心やニーズ、願いは当然異なります。この違いを「みんなで合わせること・我慢して行動すること」などが大切という価値軸が長らく日本の教育の中に存在していたと思います。

また、逆の視点として、「**自由と主体性**」ということがあります。自由や主体性は各自の好き勝手することなのか・・・私たちのスタンスはそうではありません。別の通信でも書きましたが、「**私の自由がもしかすると、他者の自由と干渉することはある**」と考えると、**自由と自由を相互に調整したり、承認したりしていきやり取りや、理解していくことは重要**と考えます。

今回の活動では、子どもたちのやりたい・やってみたいが存在し、それらを自分で選択したからこそ、意欲的に取り組むことができる活動であったと考えています。そしてそれらの気づきを各自だけに留めるだけではなく、クラス全体や友達との間で、「こんなことあったよ」とシェアしていくことが活動後に起こっています。また、子どもたちの遊びや活動の中で感じる面白さ、楽しさは一貫していないこと、混ざることによくあることです。このような時期に、すべての時間、一律の方法に合わせて行うことが果たして、教育における子どもたちの育ちや、本当の意味での平等を支えられるのでしょうか。

集団教育では、「**平均**」、「**多くの層が該当するところ**」に合わせて展開されていくことは多くあります。システム・仕組みの面ではどうしてもその方法が用いられることはどうしても起こりえるとは思いますが、だからこそ、実践者の意識や工夫が重要です。

現在国では、次期学習指導要領や幼稚園教育要領等の改訂の議論が進んでいますが、「**個別最適な学び**」は変わらずキーワードになっていくと考えます。またあわせて「**協働的な学び**」も受容な位置づけとなるでしょう。「個人レベルで自分の自由に過ごす」ということではなく、「**みんなの中にある私という意識**」、「**私がやりたいことは周囲との対話をし、選択し、自己決定をして成し遂げていく**」というプロセスを様々な活動で大切にしたいと思います。